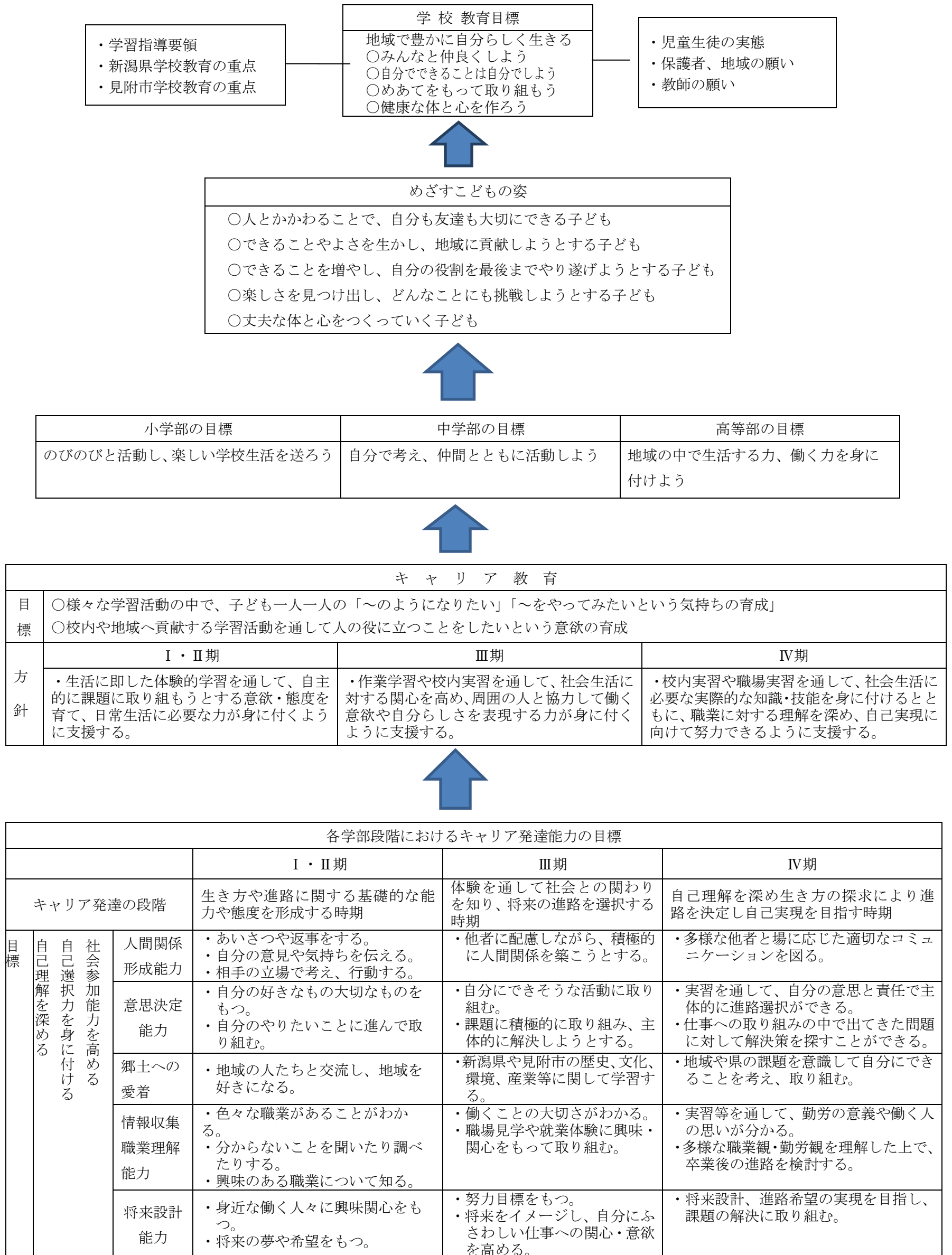


見附市立見附特別支援学校

1 キャリア教育全体計画



2 進路指導との関連

(1) 進路指導のねらい

- ・児童生徒の実態に応じて、地域社会で生きる力や将来の職業生活に必要な能力および態度を育てる。
- ・本人や保護者が主体的に進路選択できるように、多様な視点に基づいた情報提供、支援を行う。
- ・関係機関と連携し、卒業後の進路決定や職場への定着を支援する。

(2) 各期の指導内容と分野との関連

分野	指導内容	I・II期	III期	IV期
		小	中	高
く ら す	①基本的な生活習慣に関する事(起床、睡眠、食事、排泄、着替え等)	◎	◎	○
	②家事に関する事(家事手伝い、役割、清掃、洗濯、施錠、留守番、調理等)	○	◎	◎
	③お金の使い方、買い物に関する事、金銭管理、カード利用に関する事	○	○	◎
	④健康管理に関する事(手洗い、うがい、歯磨き、清潔、入浴、身だしなみ)	◎	◎	○
	⑤社会生活に関する事(助けを求める力、公共交通機関の利用、障害福祉の理解と利用)	○	○	◎
は た ら く	①人との関わりに関する事(あいさつ、受け答えなど)	◎	◎	○
	②コミュニケーション(役割や立場の理解、場に応じた言葉遣い)	○	◎	◎
	③安全に関する事(危険の認知)	◎	◎	○
	④仕事に関する事(指示理解、作業技能、意欲、態度)	○	◎	◎
	⑤協力、協働に関する事(給食当番、集合整列、集団活動への参加)	○	◎	◎
	⑥時間とスケジュールに関する事(時間を守る、提出期限を守る)	○	○	◎
	⑦職場見学(福祉サービス事業所、企業など)		○	◎
	⑧職場体験(中3、高等部生)		○	◎
	⑨職場実習及び校内実習(前期、後期の年2回)		○	◎
た の し む	①余暇に関する事(遊び、楽しみ、趣味、特技等)	◎	◎	◎
	②公共施設の利用に関する事(施設利用の仕方、施設利用のマナー)	◎	◎	◎
	③地域スポーツ、地域行事等イベントへの参加	◎	◎	○

3 高等部について

(1) 目標 「地域の中で生活する力、働く力を身に付けよう」

(2) 指導の重点

- ①計画的な進路学習(職場見学、体験、実習、教育相談等)を通して、自分の現在や将来に目標をもつことができるようにする。
- ②体験的な学習(校外学習、宿泊学習、修学旅行等)を計画的に取り入れ、社会生活に必要な知識、技能、態度を身に付けるようにする。
- ③学級、学部等の集団での活動を意図的に計画的に取り入れ、集団のルールで生活する力を身に付けるようにする。
- ④継続的な運動で体力の向上を図るとともに、自分の考えや気持ちを伝える場面を多く設定し、健康な心と体で活動できるようにする。

(3) 職業教育に関する主な指導の形態

授業	ねらい	学習内容
ライフ	○卒業後の自立した家庭生活、社会生活、職業生活に関する内容を適切な単元を設けて学習することにより、卒業後の生活に生かす知識、技能、態度を育てる。	・働く……進路学習、実習に向けて自分を見つめる ・暮らす……衣食住に関する学習、調理、掃除、洗濯等 ・楽しむ……校外学習、宿泊学習、修学旅行に向けての学習
作業学習	○作業活動を学習の中心に置き、働くことの意義を理解し、卒業後の職業生活に必要な知識や技能、態度を育てる。	1 作業学習……受託班、縫製班、リサイクル班を設定し、働くことの基礎的な力を身に付ける。 2 職業生活……目標課題別にA、B、Cの3班を設定し、地域社会に広がる学習に取り組む。 職場体験、職業技能検定、ビジネスマナー、金銭管理学習、相談支援と就労支援のしくみ等
校内職場実習	○働くために必要な知識、技能、態度を身に付ける。 ○働く経験を通して職業生活における適性と課題を整理し、進路選択や指導、支援の改善に役立てる。	・実際の産業現場や福祉サービス事業所等で働く経験を積む。卒業後の生活を想定した過ごし方の実践。

(4) 職業教育に関する学習の年間計画

月	作業学習		ライフ (学年ごと)	進路指導に関する 主な活動
	作業	職業生活 (目標課題別)		
4	*通年			進路指導年間計画作成 前期実習依頼、準備 保護者懇談会：進路講話
5	○縫製班 製品作り、販売活動 接客学習	A：職場体験①② (企業2か所) C：職場体験① (みつけワークス 生活介護)	○進路主事講話 ・3年生修学旅行	県：高生徒進路希望調査
6	○受託班 金属部品組み立て、 箱折り等企業から の受託作業、納品		○実習期間中に 1年生実習先見学	小中学部：進路講話 実習激励会 前期校内及び職場実習 実習報告会 PTA情報交換会：進路学習 会
7	○リサイクル班 ペットボトルキャ ップ、マットリング 等リサイクルに関 する作業	AB：職業技能検定 (月ヶ岡) C：職場体験② (リサイクルセンター)	・1年生校外学習 (市内スーパー、レストラン) ・2年生宿泊学習 (新潟)	個別懇談：進路面談
8				中越地区実習調整会議
9		AB：外部講師講話 C：職場体験 (地活あじさい) A：職場体験③④ (企業2か所) B：職場体験① (福祉サービス事業所)	・3年生校外学習 (ボウリン グ、カラオケ 等) ・重複校外学習 (カラオケ等) ・1年生校外学習 (加茂山公 園) ○1、2年生企業見学	
10		B：職場体験②③④ (福祉サービス事業所) C：職場体験④ (工房みつけ 生活介護)	○進路主事講話	実習激励会 地域ネットワーク会議：進路 講話
11		AB：グループホーム見学 (男子寮、女子寮)	・2年生校外学習 (市内物産 館、レストラン、図書館 等)	後期校内及び職場実習 実習報告会 高等部保護者懇談会
12		A：ハローワーク三条見学 (求人検索体験含 む)		中学部実習：進路講話
1				特設実習 小中高学部懇談会：進路講話
2			○進路主事講話 ○外部講師講話 ○1、2年生企業見学	高1、2年生 次年度前期実習希望調査
3			・3年生身だしなみ講座 ・3年生校外学習 (テーブルマナー)	高3年生移行支援会議 中越地区実習調整会議

* グループホーム見学を職業AB合同の男女別グループで行う。

* 企業見学を1、2年生で2回行う。

* 職業グループの体験学習とライフの○印は進路主事が企画の窓口となる。

(5) 年間指導計画 一例 (職業生活Aグループ)

令和2年度 高等部 職業生活Aグループ年間指導計画

【年間目標】

- ・作業学習で身につけた基礎的な力を、一般就労できる力へと向上させる。
- ・地域社会に広がる学習を行い、職業に関する知識と経験の幅を広げる。

【めざす子どもの姿に向けて】

- ①職業技能検定へ向けて繰り返し練習する機会を設定する。
- ②異なる業種の企業で職場体験を行い、経験を広げる。
- ③自己評価と他者評価を比較することにより、客観的な自己理解を促す。
- ④職業生活に必要なコミュニケーション、働く態度、身だしなみ、金銭管理等の学習を通して、将来の生活に希望をもった人材を育成する。

学期	月	時数	<>単元名(指導内容)と(・)ねらい	○主な学習活動
1	4	4	・1学期職業生活学習オリエンテーション <進路についての基礎知識・ビジネスマナー> ・企業で働くために大切なマナーや身だしなみ、意欲的に行動するための知識を習得できる。	○働く意義を考え、自己の目標を設定する。 ○お辞儀、挨拶、返事、声、表情、姿勢等、人と関わる際のマナーを学習する。 ○コミュニケーションスキル習得のために、ロールプレイ等の練習を行う。
		10	<職場体験・実習に向けて> ・ダスタークロスを中心とした清掃技能を習得し、日常の清掃場面で実践することができる。	○職業技能検定ダスタークロス部門の検定基準を生かして、習得、実践する。 ○校内の清掃場面で実践する。
	5	・職場体験先の高齢者福祉施設やスーパーを想定し、周囲への配慮事項を考え、清掃の際の礼儀作法やマナーを習得することができる。	○職場体験先の高齢者福祉施設やスーパーを想定し、周囲への配慮事項を考えながら練習を行う。 ○職業技能検定ダスタークロス部門に参加し、学習の成果を試す。	
	6	4 <職場体験：一般企業> ・いくつかの異なる職種を経験することで、職業への知識、理解を深めることができる。 ・実際の職場を経験することで、自己の職業適性を考えることができる。	○事務、高齢者介護福祉、製造、接客、農業等の職場から受入可能な職場で体験する。 ○ワークシートを利用して、体験内容についてマッチングの確認やスキルの評価等の振り返りをする。	
2	8	4	・2学期職業生活学習オリエンテーション <職業講演会> ・企業へ就労する際に求められる力、必要な力を知ることができる。 ・企業への就労状況を知ることができる。 ・将来の職業生活へ向けて準備することを考える。	○働く意義を再度考え、目標を設定する。 ○外部講師による講演会を実施する。 ○ワークシートを利用して講演内容をふり返り、まとめる。
		9	6 <職場体験：一般企業> ・いくつかの異なる職種を経験することで、職業への知識、理解を深めることができる。 ・実際の職場を経験することで、自己の職業適性を考えることができる。	○事務、高齢者介護福祉、製造、接客、農業等の職場から受入可能な職場で体験する。 ○ワークシートを利用して、体験内容についてマッチングの確認やスキルの評価等のふり返りをする。
	10	8	<金銭管理学習「もしも一人で暮らしたら」> ・生活するのに必要なお金について考えることができる。 ・収入を知り支出とのバランスから節約を考えることができる。 ・自分に適した住まいを考えることができる。	○ワークシートを利用して、日々の生活の必要経費を考える。 ○給料や障害者年金等の収入を知り、支出とのバランスから節約する考え方を学ぶ。 ○自分に適した住まいを考える。アパート探しを想定しシミュレーションしてみる。
		11	3 <グループホーム見学> ・地域にあるグループホームを見学することで金銭管理学習で得た知識と理解を深めることができる。 ・実際のホームを見学することで、将来の職業生活をイメージすることができる。	○金銭管理学習で学んだ内容をふり返る。 ○ワークシートを利用して見学した内容をふり返り、一人暮らしするために身に付ける力を考える。
	12	3 <ハローワーク見学、求人検索体験> ・ハローワーク三条を見学し、求職活動する際の相談について学ぶことができる。 ・実際にパソコン求人検索を体験することで、就活をイメージすることができる。	○就職するためには求職活動と相談する場所があり、利用できることを知る。 ○求人検索体験を通して、就職先の探し方や求人票の見方を知る。	
3	1	6	・3学期職業生活学習オリエンテーション <相談支援のしくみと就労支援のしくみ> ・就業・生活支援センターの役割を知り、活用できることを知る。 ・就職手続きの方法を理解する。求職登録を知り履歴書を書くことができる。	○働く意義を再度考え、目標を設定する。 ○就労や生活に関する制度を学習する。 ○就職の相談先として就業・生活支援センターがあり、その役割と活用方法を学ぶ。 ○求職の方法、求人票の見方を復習し、就職するための手続きについて学ぶ。 ○応募書類として必要な履歴書を実際に書いてみる。
		8	<卒業したら社会人！ 卒業後のトラブルについて、事例から学ぶ> ・人間関係のトラブルや契約、金銭関係のトラブル、離職してしまってから復帰に至るまで・・・など事例を知る。 ・自分事として捉え、その解決方法を考えることができる。	○特別支援学校卒業生のトラブル事例を紹介する。 ○解決方法を考え、ワークシートに書き出す。 ○自分の考えを発表し合い、解決の方法を導き出す。 ○相談すること、助けを求め、よりよい生き方を求めることで解決できる方法を学ぶ。
	3	4 <パソコンを活用して学習のふり返りとまとめ> ・PCの基本的な利用方法を習得できる。 ・wordによるデータ入力を行うことができる。 ・職業生活で学んだことをふり返り、整理することができる。	○PCを利用し、wordのローマ字入力を練習する。 ○学習のふり返りシートを利用して、文字を入力する。 ○「数年後の自分に向けて」の手紙をPC文書で作成し、職業学習のまとめとする。	

(6) 評価基準について

○見附特別支援学校高等部では、「働く力」を次の4領域16項目で評価する。

	【4領域】	【16項目】
「働く力」	○作業態度	①身だしなみ ②衛生面 ③時間 ④ルールやマナー ⑤勤労意欲、表情
	○対人関係	①挨拶、返事 ②報告 ③質問 ④意思表示、相談 ⑤人とのかかわり
	○作業能力	①準備、片付け、清掃 ②指示理解、正確さ ③集中力 ④効率、速さ ⑤道具の取り扱い
	○安全面	①安全の確保

○評価時期と評価の活用方法について

- ・4月に実態把握を行い、前・後期実習後に各作業班、職業グループで生徒の達成状況を評価する。
- ・評価を基に個別の指導計画の作成や各授業における目標設定をする。

①年度初め：実態把握 → 前期「個別の指導計画」の目標設定に活用する。
②前期実習後（～夏季休業中）：実習先の評価も参考にしながら評価をする。 → 中間評価として生徒と確認し、2学期の目標を設定する。 → 前期「個別の指導計画」の評価と後期「個別の指導計画」の目標設定に活用する。
③後期実習後（～冬季休業中）：実習先の評価も参考にしながら評価をする。 → 中間評価として生徒と確認し、3学期の目標を設定する。
④年度末：1年間の成果と課題を確認し、次年度に引き継ぐ。

- ・「作業学習」と「職業生活」の学習の振り返りで評価をする。

・作業内容や学習内容、生徒の実態に合わせて4領域16項目の中から抽出した項目を振り返り用紙に反映させ、各学習の毎時間の振り返りで自己評価と教師による評価を行う。なお、評価項目は必要に応じて生徒が分かりやすい言葉に変える。
--

評価項目		評価	評価基準
作業態度	【身だしなみ】 服装、髪型、靴、 持ち物など	4	社会人としてふさわしいかを考え、自分で身だしなみを整えることができる。
		3	仕事や休憩時間でも、身だしなみを整えることができる。
		2	必要に応じて支援を受け、仕事では身だしなみを整えることができる。
		1	挨拶、入室する場面では、シャツやズボンを整えることができる。
	【衛生面】 爪、手洗い、髪の毛 歯磨き等	4	いつも清潔であることを心がけることができる。
		3	仕事や休憩時間は、衛生面に気をつけた行動ができる。
		2	必要に応じて支援を受け、衛生面に気をつけて仕事を行うことができる。
		1	支援や見守りを受けながら、作業道具に触る前に手を洗うことができる。
	【時間】 作業の開始時間と 終了時間	4	開始時間や終了時間などを意識し、時計を見て次の行動の準備をするなど自分で考えて計画的に行動することができる。
		3	仕事や休憩で、自分から5分前行動をすることができる。
		2	必要に応じて支援を受け、仕事の開始時間で仕事を始めることができる。
		1	支援や見守りを受け、仕事の開始時間前には席についていることができる。
作業態度	【ルールやマナー】 仕事上でのルール 休憩時等のマナー	4	社会でのルールやマナーを守り、他の人にも気を配った行動ができる。
		3	仕事や休憩時でのルールやマナーを守って、行動することができる。
		2	決められたルールに従い、仕事を行うことができる。
		1	支援を受けながら、決められたルールを確認して仕事を行うことができる。
作業態度	【勤労意欲・表情】	4	目標数を考え、自分から進んで仕事に取り組み、周りにもよい影響を与えることができる。
		3	仕事と休憩を区別し、目標を意識して進んで仕事に取り組むことができる。
		2	必要に応じて支援を受け、仕事に取り組むことができる。
		1	支援を受けながら、一定時間は仕事場にいることができる。
対人関係	【あいさつ・返事】	4	場面や相手に応じて、自分から快活な挨拶や返事を行うことができる。
		3	仕事や休憩中に、挨拶や返事を行うことができる。
		2	必要に応じて支援を受け、決められた場面で挨拶や返事を行うことができる。
		1	支援を受けて、自分なりの方法で相手のあいさつに応えることができる。
	【報告】	4	相手の状況を判断し、必要な場面では自分から報告を行うことができる。
		3	作業が終わった時や分からない時に、すぐに報告を行うことができる。
		2	決められた場面では、決められた言い方で報告を行うことができる。
		1	支援や見守りを受けながら、自分なりの方法で報告を行うことができる。
	【質問】	4	状況を自分で判断し、必要な場面では自分から質問を行うことができる。
		3	分からないことがあった時に、質問をして確認を行うことができる。
		2	分からないときに、必要に応じて支援を受け、決められた言い方で質問を行うことができる。
		1	支援や見守りを受けながら、自分なりの方法で質問を行うことができる。
	【意思表示・相談】	4	状況を自分で判断し、必要な場面では自分から相談を行うことができる。
		3	困ったことや伝えたいことを、すぐに相手に相談を行うことができる。
		2	必要に応じて支援を受け、伝えたいことを意思表示を行うことができる。
		1	支援を受けながら、自分なりの方法で意思表示を行うことができる。
	【人とのかかわり】	4	周囲の人と良好な関係を築き、自分から他の人に仕事を依頼したり、仕事の状況を報告したりしながら、仕事を進めることができる。
		3	お互いに声を掛け合いながら仕事を進めることができる。
		2	支援者や他の人のやり方を見ながら仕事を行うことができる。
		1	人に迷惑をかけないように仕事を行うことができる。

作業技能	【準備・片付け・清掃】	4	自分のやるべきことを理解し、全体に指示を出したり、人に依頼したりするなど、周りの人と協力して、自分から進んで取り組むことができる。
		3	準備、片付け、清掃の手順を理解し、やるべきことに取り組むことができる。
		2	必要に応じて支援を受け、手順を確認しながら、取り組むことができる。
		1	支援を受けながら、準備や片付け、清掃に取り組むことができる。
	【指示理解・正確さ】	4	仕事のスピードや精度を上げるために、手順や方法を自分で工夫しながら進めることができる。
		3	仕事内容や、仕事の手順を理解し、正確に取り組むことができる。
		2	必要に応じて支援を受け、仕事内容を確認しながら、取り組むことができる。
		1	支援を受けながら、正しく仕事を行うことができる。
	【集中力】	4	精度や作業量を意識して、最後まで仕事をやり遂げることができる。
		3	与えられた仕事が終了するまで仕事を続けることができる。
		2	仕事の終了時間まで仕事に取り組むことができる。
		1	一定の時間や、一定の仕事量までは、手を止めずに続けることができる。
	【効率・速さ】	4	時間内に効率よく進められるよう、仕事の優先順位を自分で考えて、素早く仕事に取り組むことができる。
		3	素早く仕事に取りかかり、時間を意識しながら仕事を進めることができる。
		2	必要に応じて支援者の助言を生かし、スムーズに仕事を進めることができる。
		1	決められた仕事の手順を理解し、支援を受けながら進めることができる。
【道具の取り扱い】	4	道具を丁寧に扱うことができ、職場環境の整理整頓ができる。	
	3	仕事中はもちろん、準備や片付けの時も、道具を丁寧に扱うことができる。	
	2	道具が大切であることを理解し、丁寧に扱いながら仕事ができる。	
	1	周りの人に危険がないように仕事の道具を扱うことができる。	
安全面	【安全の確保】	4	一人で安全確保ができ、危険個所や危険な場面に気づくことができる。
		3	仕事中心や休憩時でも一人で安全確保ができる。
		2	必要に応じて見守りを受けながら安全に仕事に取り組むことができる。
		1	見守りや支援を受けることで、周りの人や自分に危険がないようにできる。